

【研究概要】

辺縁系脳炎は大脳辺縁系を中心とした中枢神経の炎症性疾患で、免疫抑制治療が奏功する可能性のある疾患である。しかし現時点では病態も未解明な点が多く、診断・治療のバイオマーカーは存在しない。本研究は、既存の検体（髄液・血清・唾液）、検査結果（画像検査、長時間ビデオ脳波など）を用いて、抗神経抗体が関与すると思われる自己免疫性辺縁系脳炎の新規抗体を解析の上で病態解明と新規バイオマーカーの検索を目的としている。